

※写真:五老ヶ岳から舞鶴湾を一望(舞鶴市ホームページから引用)

【MAIZURU 地域医療シンポジウム】

(第2部)パネルディスカッション

～「医療現場の実際と今後の展望」～

病院紹介：舞鶴医療センター 院長 法里 高

舞鶴鎮守府・海軍病院

明治34年創設、今年で122年

独立行政法人  国立病院機構



舞鶴医療センター

一般病棟 (7F・免震構造:165床)

精神病棟 (2F:120床)

引揚患者の上陸第一病院に指定

献納画

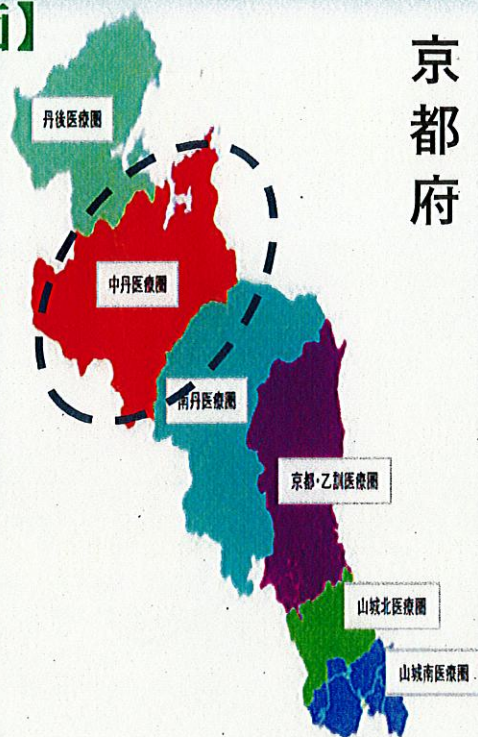


【京都府保健医療計画】

京
都
府

6つの二次医療圏

- ①丹後医療圏・・・京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野町
- ②中丹医療圏・・・**舞鶴市**、福知山市、綾部市
- ③南丹医療圏・・・南丹市、亀岡市、丹波町
- ④京都・乙訓医療圏・・・京都市、長岡京市、向日市、大山崎町
- ⑤山城北医療圏・・・宇治市、城陽市、八幡市、他、4市3町
- ⑥山城南医療圏・・・木津川市、精華町、他、1市3町1村



【京都府保健医療計画】

「舞鶴医療センター」が担う役割



・統合失調症、うつ・躁うつ病、児童思春期、アルコール・薬物依存症等の専門医療

・一般診療科と精神科の連携強化等による身体合併症患者の受入促進

・北部地域における『精神科救急基幹病院』

・『認知症疾患医療センター』

糖尿病

がん

5 疾病

精神疾患

急性心筋梗塞

脳卒中

・近畿北部唯一の『緩和ケア病棟』を整備（15床）

・『京都府がん診療連携病院』

・SCU 6床 整備

・『脳卒中急性期医療を担う医療機関』

・『一次脳卒中センター（PSC）』



※写真はイメージ

※赤字・・・京都府から「指定」

【京都府保健医療計画】

「舞鶴医療センター」が担う役割



『救急告示病院』

市内救急搬送人員

・令和4年 3, 789人
うち、当院へ1, 537人 (40.6%)

・令和5年1月～11月
3, 625人
うち、当院へ1, 417人 (39.1%)
(舞鶴市消防本部資料から)



石川県知事から国立病院機構
に派遣要請。
当院から医療班を派遣(1/16～20)

・新型コロナウイルス感染症

『重点医療機関』即応病床23床

今回の新型コロナウイルス感染症の発生・
感染拡大への対応の教訓を踏まえ、
医療提供体制を追加

救急医療

小児医療

・市内で唯一、入院を必要とする小児疾患患者
の受入医療施設

周産期医療

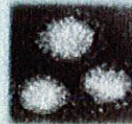
・北部地域における
『周産期医療サブセンター』

- ・「ハイリスク分娩」の受入
- ・当院のドクターカーによる近隣
医療機関及び府立医大附属病院
との間で、超未熟児を含む未熟
児の送迎
- ・NICU (新生児集中治療室) 6床

災害医療

へき地医療

新興感染症対策医療
(令和6年度～)



6つ目の
事業

※赤字・・・京都府から「指定」

【京都府保健医療計画】

その他、「舞鶴医療センター」が担う役割

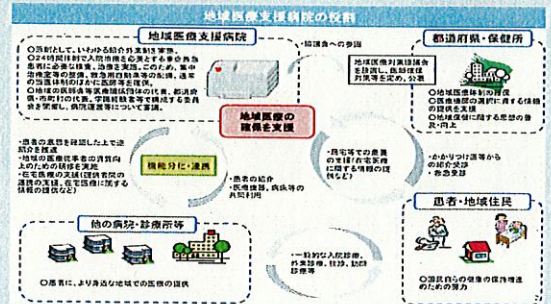
『地域医療支援病院』

地域の医療機関と連携をとり、病院の施設・設備を共同
で利用できる体制、地域の医療従事者の質向上を図るた
めの研修を行うなど、地域医療の中核を担う役割

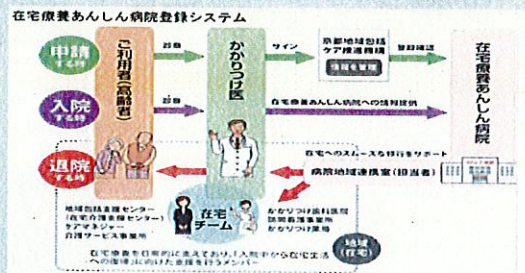
『在宅療養あんしん病院』

在宅療養中の高齢者の方が体調を崩し、在宅での療養
が困難になる前に、スムーズに病院で受診し入院するこ
とで、病状の悪化や日常生活動作の低下をできるだけ防
ぎ、退院後、在宅生活を続けられるよう医療機関とかけ
りつけ医、地域包括支援センターやケアマジャー等が連
携してサポートする

※赤字・・・京都府から「指定」



※図：厚労省ホームページから抜粋



※図：「京都府保健医療計画」から抜粋

【直面している課題とその対応・改善策】

「医師」不足

《現状》

市内公的3病院の標榜診療科が重複していることによる医師不足。

→医師の偏在 →医師の疲弊 →患者数の減 →病床利用率の低下 →経営状況の悪化

《今後の改善策》

人口減少・病床利用率低下からみて、公的病院各診療科の合計医師数は充足。

→非効率な医師配置を解消



「看護師」不足

《現状》

看護師、特に助産師不足。看護学校「閉校」後の看護師確保が更に困難。

《現在の対応策》

他の国立病院機構病院からの『派遣』。病院独自の『奨学金』制度の創設。

《今後の改善策》

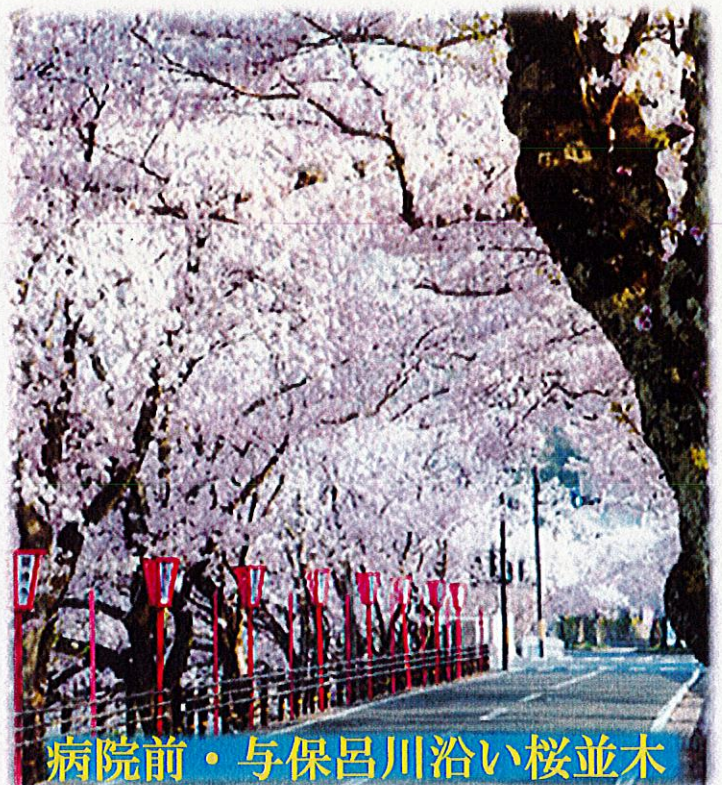
実習生の受入強化。→当院の魅力をPR。

潜在看護師の掘り起こし→ブランクによる不安を解消するための就職を前提とした復職プログラムを作成



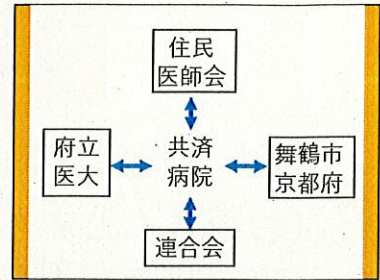
独立行政法人 国立病院機構
舞鶴医療センター
Maizuru Medical Center

ご清聴ありがとうございました。



病院前・与保呂川沿い桜並木

沿革・概要（舞鶴共済病院） 開院 116年の歴史



明治40年 舞鶴海軍工廠職工共済会病院として開設
昭和25年 旧令特別措置法：国家公務員共済組合連合会へ承継

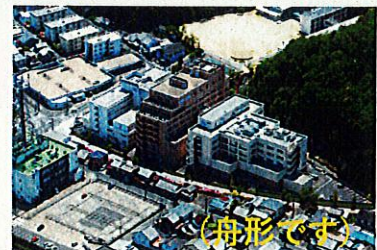
国家公務員共済組合連合会：年金事業 財務省管轄
病院部（22病院運営）：虎の門、大手前など
旧令病院部（10）：鎮守府地域（横須賀、呉、佐世保）
「当面の間、運営・管理を行う」
すこやか森（老健施設 西舞鶴 100床）：当院が管轄
独立採算制（本部貸付制度）市から救急・保育所等助成+



許可病床数：300床（一般 254、地域包括 36、ICU 10）
→ 休床 46床 → 現在 254床で運用

昨年4月病院長拝命（第35代）：今まで金沢大学が病院長踏襲
→ 新体制へ（院長、副院長ともに京都府立医大出身）

当院の特長・特徴（1）

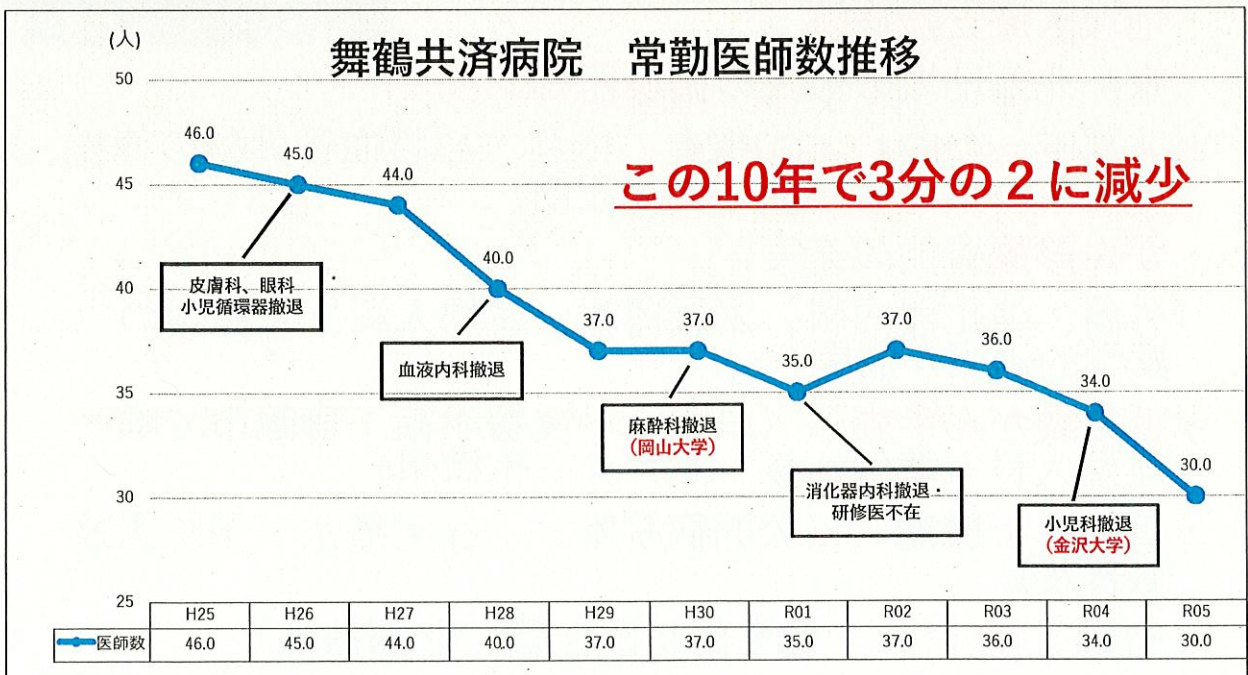


- ・ 地域医療支援病院
- ・ 京都北部地域の最大の循環器センター
(北部唯一のICU・CCU保有、内科・心臓血管外科の連携、心臓リハビリテーションを完備)
- ・ がん診療機能の充実
(外科、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻科の集学的治療が展開)
- ・ 低侵襲がん手術（ロボット支援手術：舞鶴市で唯一産婦人科も準備へ→センター化構想)
- ・ 腎臓透析機能（公的病院唯一 在宅療法・予防医療も普及)
- ・ 歯科口腔外科（3名歯科医在籍 北部拠点)

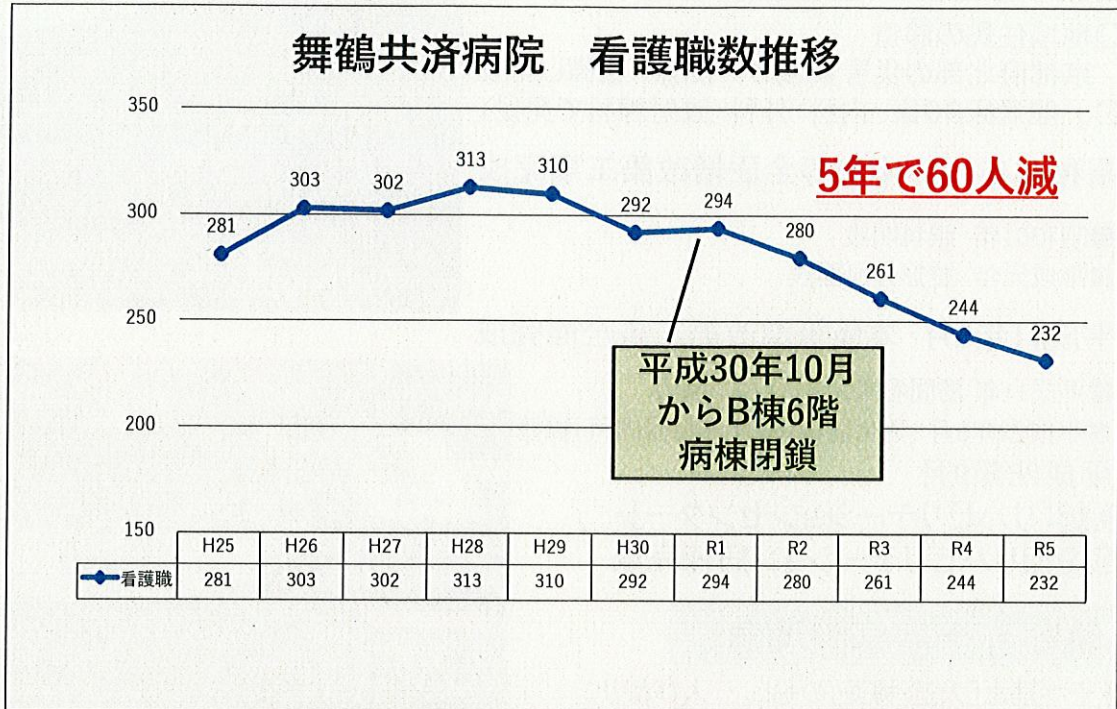
当院の特長・特徴（2）

- ・ **赤ちゃん**にやさしい病院（Baby friendly hospital: BFH）
（お母さんと赤ちゃんにやさしい母乳育児を推進 当院の小児科医が不在となり医療センターとの連携を密に）
- ・ 充実した**手術室**
（8ルーム完備、オールラウンドな外科手術に対応可能）
- ・ **高気圧酸素療法**開始
（顎骨壊死や突発性難聴などの疾患に対応）
- ・ **地域医療連携室** （実地医家・医師会との密な連携
→ 逆紹介率：過去5年で22%増加 82.7%↑）
- ・ **認定看護師・特定行為看護師**の充実
（感染管理・緩和ケア・皮膚排泄ケア・救急看護など9名の認定看護師を育成）

喫緊の課題(1)：常勤医師の確保

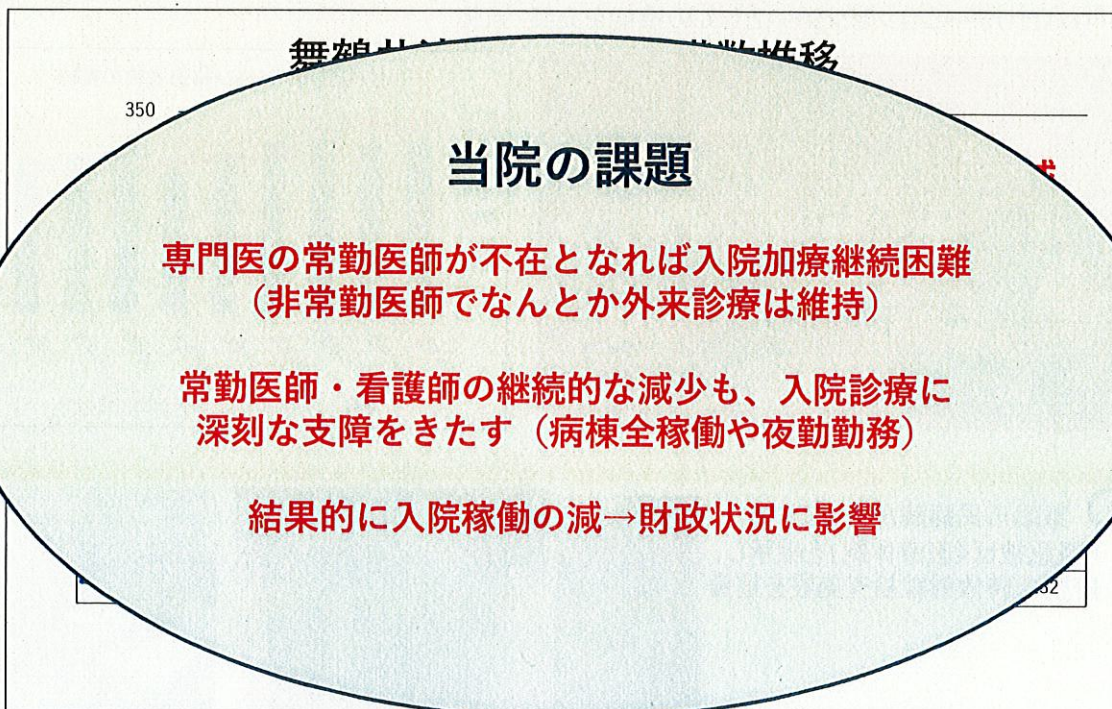


喫緊の課題(2):看護職の確保



急激な看護職の減少(舞鶴市全体の課題)

喫緊の課題(2):看護職の確保



急激な看護職の減少(舞鶴市全体の課題)

1 沿革

■昭和28年6月1日 診療開始

- 地域住民の診療
京都府北部の災害救護の一拠点 整備し開設
- 一般病床90床、内科・外科・放射線科で発足。

■昭和43年5月 本館等全面増改築工事完成

- 昭和61年 眼科開設
- 平成元年 整形外科開設

■平成11年8月 本館等増改築工事全面完成

- 平成11年 訪問看護ステーション開設
- 平成22年8月 消化器科設置「消化器内科」標榜

■平成26年9月

東館「リハビリテーションセンター」・回復期リハビリテーション病棟完成



2 舞鶴赤十字病院理念

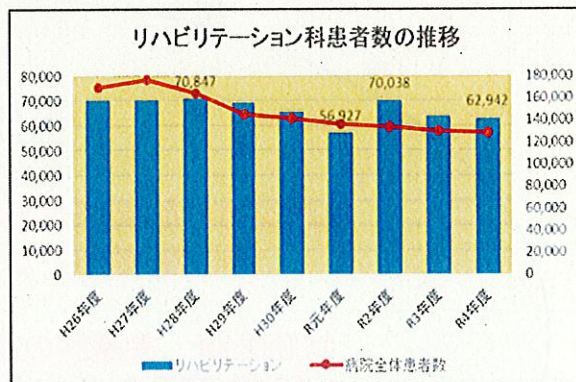
赤十字理念「人道・博愛」のもと、一人ひとりにやさしさと思いやりをもって、いのちと健康、尊厳を守り、地域医療に貢献します。

1

3 舞鶴赤十字病院の特色(1)

◆中丹地域医療再生計画(2014)における病院の方向性(選択と集中・分担と連携)

- 整形外科が充実している特色を生かし、回復期病棟やリハビリテーション施設の整備を行い、「リハビリテーションセンター」としての機能を充実・強化



- 舞鶴市民病院が有していた「緊急被ばく医療体制」を継承し、府緊急時放射線検査施設を整備



被曝線量の計測装置

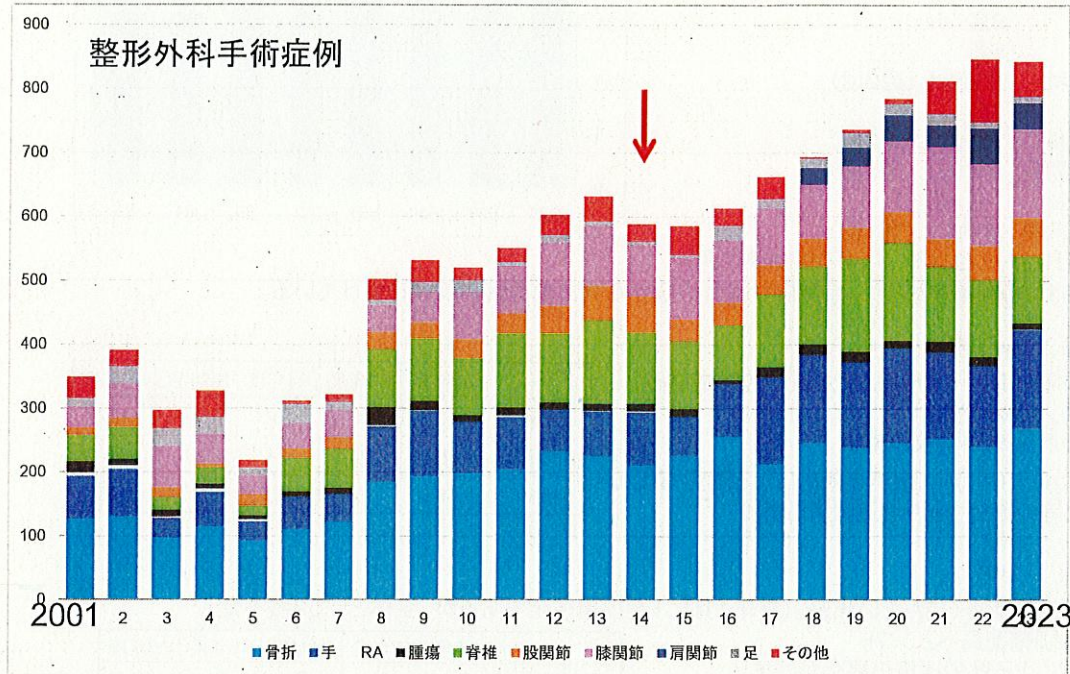
除染

2

3 舞鶴赤十字病院の特色(2)

◆中丹地域医療再生計画(2014)における病院の方向性(選択と集中・分担と連携)

- 整形外科が充実している特色を生かし、回復期病棟やリハビリテーション施設の整備を行い、「リハビリテーションセンター」としての機能を充実・強化



3 舞鶴赤十字病院の特色(3)

◆急性期から回復期、在宅まで

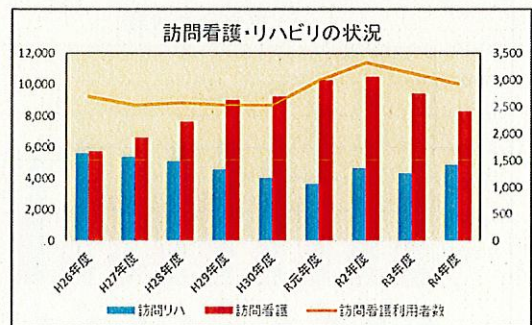
- 訪問看護・訪問リハビリ: 退院後の方が自宅などで安心して暮らせるよう、看護師やリハスタッフが中心となりその方にあった支援を提供。

◆西地区の拠点病院として新患・救急に対応

- 西地区を中心とした医療の拠点病院として、医療施設からの紹介患者はもとより、救急や予約制無しの初診外来にも対応。

◆赤十字救護活動の実施

《赤十字社の使命》: わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康・尊厳を守ります。



H28年熊本地震での活動



R6年能登半島地震での活動

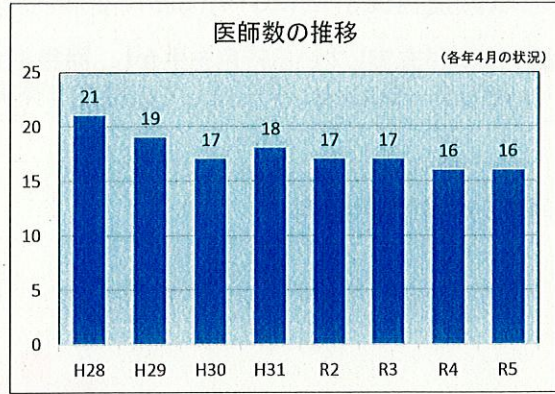


H23年東日本大震災での活動

(1) 医療人材の確保

① 医師：17名

- 内科 4名(嘱託等含む)
- 小児科 常勤なし(週4回)
- 消化器 2名
- 外科 2名
- 整形 5名
- 皮膚科 常勤なし(週2回)
- 眼科 2名
- 耳鼻科 常勤なし(週2回)
- 泌尿器科 常勤なし(週3回)
- 麻酔科 1名(嘱託)
- 神経内科 常勤なし(週1回)
- リハビリテーション科 1名(令和6年1月)



○内科は、当直業務などに、京都府立医科大学から非常勤医師の派遣を受けている。

② 看護師：147名

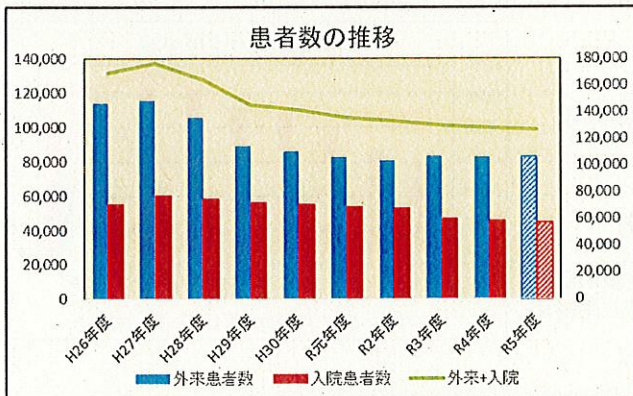
- 看護師・看護助手の新規採用が難しくなっている。
- ・四年制大学への進学
- ・地元の看護専門学校の縮小
- ※新型コロナウイルス感染症対応による就労環境の悪化等の影響もあり中途退職も増加

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
正規職員	137	141	131	124	122
臨時職員	23	25	24	23	23
合計	160	166	155	147	145

③ 薬剤師：3名

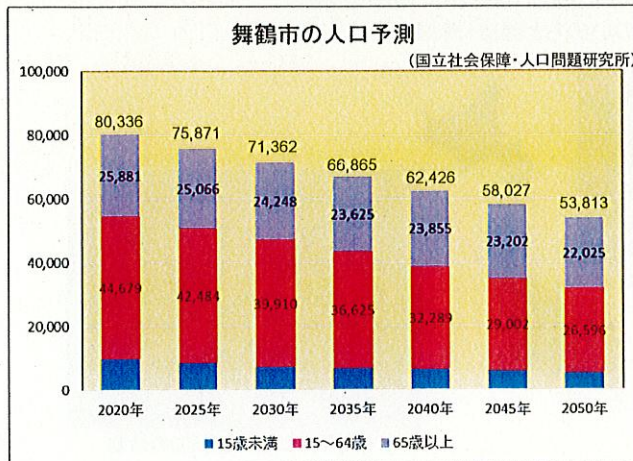
- 現在定数に大きく満たない状況。(来年4月に1名採用予定であるが、全体として2名不足)
- ・人材は調剤薬局へとシフト
- ・人数減による就労環境の悪化が懸念

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
薬剤師数	5	6	5	3	4



◆外来・入院患者数の減少

- 患者数は右肩下がりの傾向
平成26年~27年にいったん回復したが、その後も減少。
- 直近の状況は、外来患者数はコロナの発熱外来等の増加により令和3年度に一旦増加したが、その後は減少。
入院患者は連続して減少傾向にある。
- 令和5年度も減少傾向であり、入院・外来とも、平成27年と比較すると約70%程度となっている。



◆舞鶴市の人口減少

- 舞鶴市の人口は減少傾向にあり、2045年には5万人強と推計されている。
- 老年人口の数も2020年の25,881人以降減少している。

持続可能な医療

医療に置けるSDGs

市立舞鶴市民病院

令和6年1月21日
地域医療シンポジウム資料



市立舞鶴市民病院の歴史

1. 地域の基幹病院として発展

- 1940年(昭和15年) (財)海仁会病院として、旧海軍の軍人及び軍属の家族を対象とする病院として創設
- 1947年(昭和22年) 市立舞鶴市民病院として開設【一般病床70床、結核病床50床】
- 1984年(昭和59年) 24時間救急医療体制の実施 ※1969年(昭和44年)救急告知病院認定
- 1990年(平成 2年) 自治体立病院優良病院として自治大臣表彰【209床】



(旧舞鶴市民病院)

2. 大きな転換期 **昭和から平成へ** 地域医療を取り巻く環境が変化 ⇒ 市外医療機関との競争激化、少子高齢化、人口減少etc
経営改善を図るため、一部療養病床への転換、介護療養医療施設の指定、総合内科から専門診療科への移行などに
取り組むも……

- 2004年(平成16年) 内科医師の集団退職【14名中13名が退職】
→ これに伴い、病院として機能停止の状態が数年に及び、累積赤字の拡大とともに地域医療の混乱を招き、
これが結果的に、**本市地域医療のあり方を議論するきっかけとなる。**

2007年「舞鶴市地域医療あり方検討委員会」設置 2009年「舞鶴市公的病院再編推進委員会」設置 ⇒ 「中丹地域医療再生計画(案)」提出

- 2012年(平成24年)
選択と集中、分担と連携を基本コンセプトとする「**新たな中丹地域医療再生計画**」が承認され、これにより
当院は**医療療養型病院へ移行**

3. そして現在

- 2014年(平成26年)
舞鶴赤十字病院に隣接する現在地に、医療療養型病床100床に特化した医療療養型病院(外来なし)として新築・移転

市立舞鶴市民病院の現状

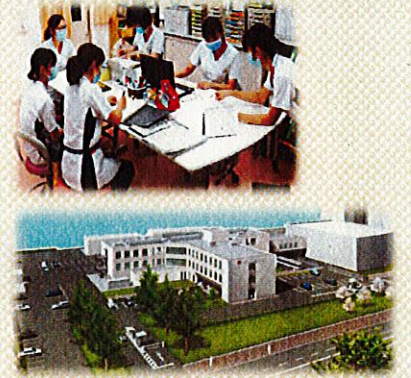
1.病院の概要

【基本的事項】

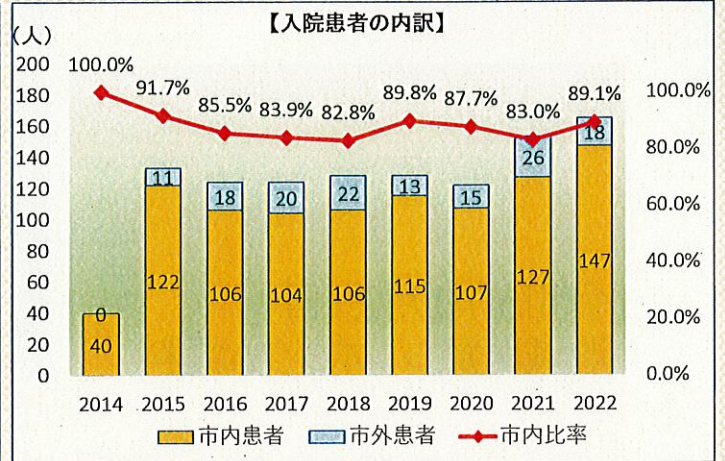
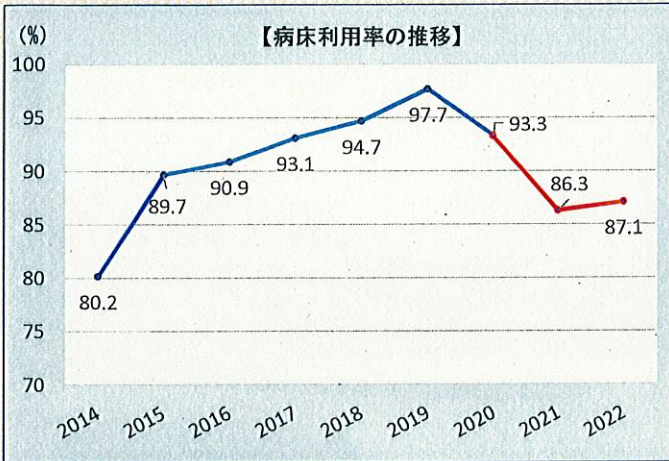
開設者	舞鶴市長
病院長	井上重洋
病床数	医療療養型病床100床
診療科	内科・リハビリテーション科
附属施設	加佐診療所

【職員体制】 ※()は会計年度職員で内数

医師	5 (4)
看護師	58 (19)
看護助手	19 (10)
医療技術	10 (2)
事務職員	19 (11)
その他	1 (1)



【入院患者の状況】



市立舞鶴市民病院の役割

➤ 現在の市立舞鶴市民病院について

- ◆「新たな中丹地域医療再生計画」においては、療養病床に特化した病院として、急性期・回復期と連携により地域の慢性期の医療ニーズへの対応を担うことが期待されている。
- 〔市内公的3病院のバックアップ機能を果たし、在宅からの入院を含めると**80割以上が市内から**、綾部、福知山からの患者を含めると**約9割が中丹医療圏の患者**が占めている。〕
- ◆附属施設である加佐診療所は、へき地医療を担う医療機関として地域住民の期待は大きい。
- ◆地域包括ケアの推進においても「医療」と「在宅」を繋ぐ架け橋の役割を担う。
- ◆療養病床に特化した自治体病院は全国的にも珍しく、安定した地域医療体制を維持する観点からも存在意義は大きいと自負しているところ。
- ◆病院機能としては療養病床に特化、一般外来は行っていない。



急性期病院と連携のもと慢性期医療の分野から地域医療を支える

市立舞鶴市民病院の課題

- 病院規模が小さい。
 - ① 病床稼働の変動や退職者の発生が、即、経営、病棟運営に影響する
 - ② 医療資源を入院患者に効率的に集中させることができる一方で、収益の大半を入院収益が占めることから経営基盤が不安定
- 慢性期100床に特化しており対策に限られる。 → 感染症への対応等
- 医師数が限定される。
- 看護助手の確保 … なり手不足の上、老健、介護施設と競合
看護師の過密労働の一因にも
- 検査技師や薬剤師、リハビリテーションなど診療支援部門の人員面での安定
- 認知症患者、要食事介助者など濃厚な介護を必要とする患者が増加傾向にある。
- コロナ後も病床稼働が戻らず経営環境は厳しさを増す。

一般社団法人 舞鶴医師会



令和2年10月、西舞鶴倉谷に移転した医師会館

【概要】

昭和22年東西で医師会が誕生

昭和33年に東西が合併し舞鶴医師会を設立
(40施設)

地域住民の健康保持、公衆衛生と地域医療体制の充実に
を目的に地域に密着した活動を展開

- 各種 検診、予防接種等
- 休日急病診療所への出務
- 学校医・産業医

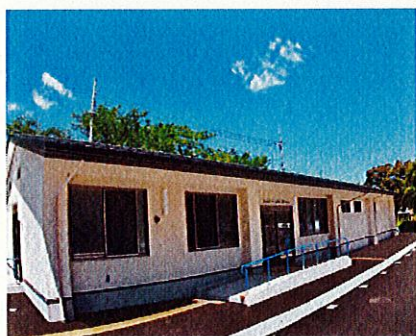
会員数 (令和5年5月現在)

116名

医療機関数

43医院 + 4病院 = 47医療機関

舞鶴医師会の活動



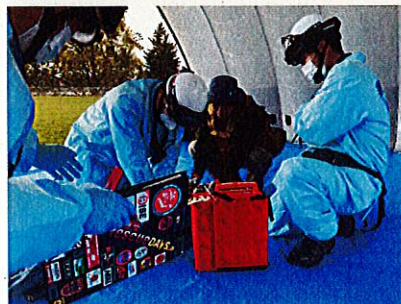
休日急病診療所



乳幼児健診



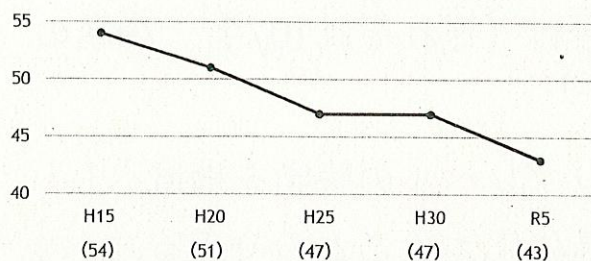
コロナワクチン集団接種



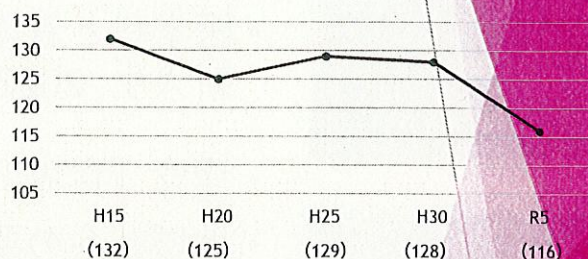
災害時医療 (地域防災訓練に参加)

舞鶴医師会の現状 (開業医及び医者への減少の実態)

A【市内開業医の推移】(単位: 医院数)



B【会員数の推移】(単位: 人)



○5年間の開業と閉院

	新規開業	閉院
舞鶴市	2	7
福知山市	1	3
綾部市	0	0
与謝・北丹	3	3
京都市	209	189

○開業医の平均年齢: 64.7歳

(41歳~82歳)

西地区 19施設 (10年前 同数)

東地区 24施設 (10年前28施設)

【 直 面 す る 課 題 】

「開業医の減少による医師会運営の危機」

○運営資金の枯渇化

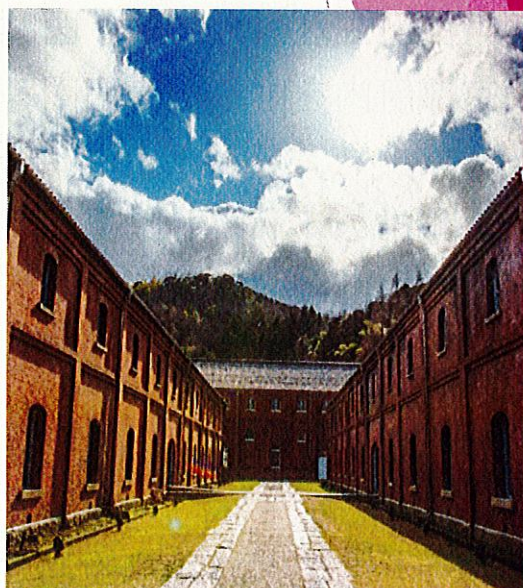
会員数の減少による収入減

○会員の高齢化による活動の衰退

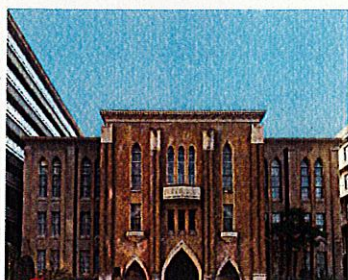
医療DXなどの複雑でついていけない

○医療スタッフの確保が出来ない

働き方改革、子育て世代の看護師の離脱



京都府立医科大学の沿革・概要



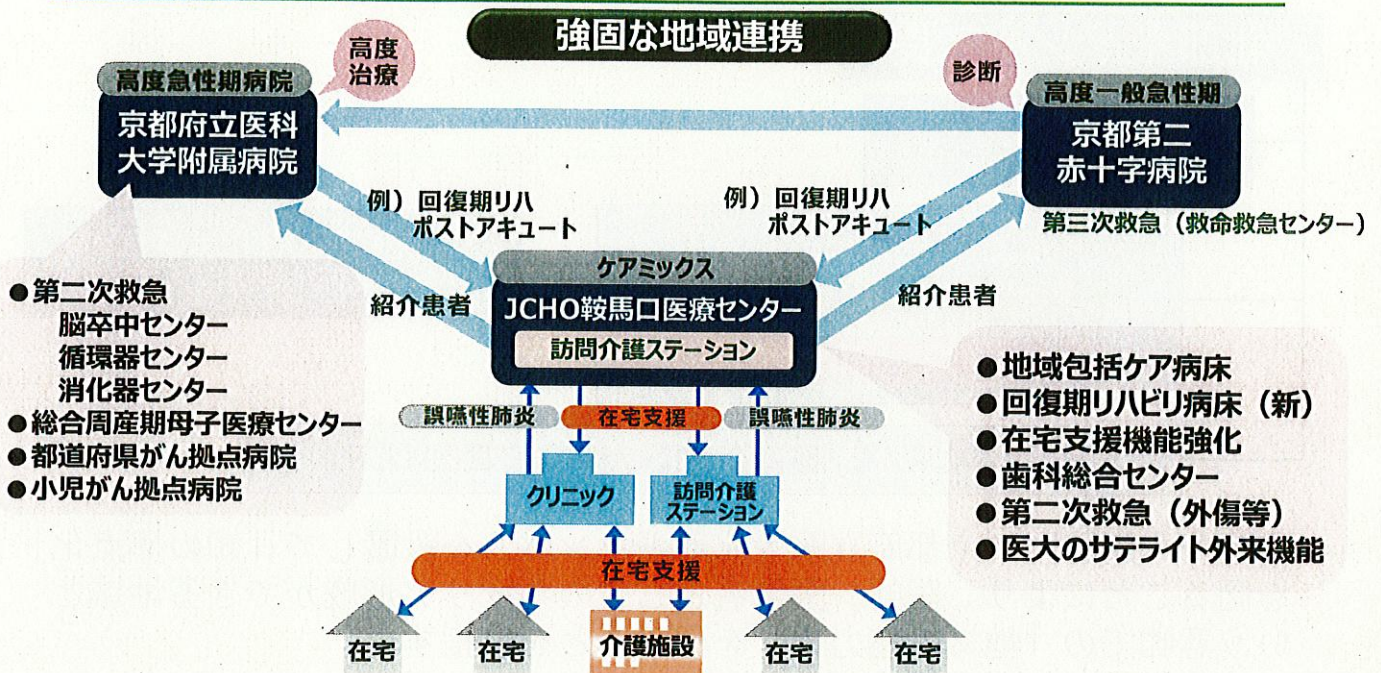
- 京都の人々の寄付によって**1872年**に設立され、**2022年**に大学創立**150周年**を迎えた
- 医学科と看護学科（それぞれ**107名**、**79名**の新入生: **2023年**）
- 理念「世界トップレベルの医学を地域へ」
- 地域社会の要請に応えることのできる、質の高い医師・看護師を養成するという使命を担ってきた
- 夜久均学長の所信表明「地域に軸足を置いた患者中心の医療を守り続ける」



関係病院

- 京都府立医科大学と、医師の勤務等において関係を持つ病院
- 京都府内を中心に関西圏等に**128病院**
- 舞鶴市の4病院も関係病院
 - 舞鶴医療センターの医師のほとんど、舞鶴共済病院の医師の半数以上、舞鶴赤十字病院の医師の**8割**が、京都府立医科大学のいずれかの医局（診療科）と関係がある
 - **2013年**: 医師**57名**→ **2023年**: 医師**67名**（**4病院**の合計）

洛中アライアンス構想 - 病院完結型から地域完結型医療へ



地域アライアンス構想 - 病院完結型から地域完結型医療へ

京都府

地域アライアンス

附属病院 (高度・先進医療)

↕

急性期病院

↕

後方支援病院

↕

診療所・クリニック

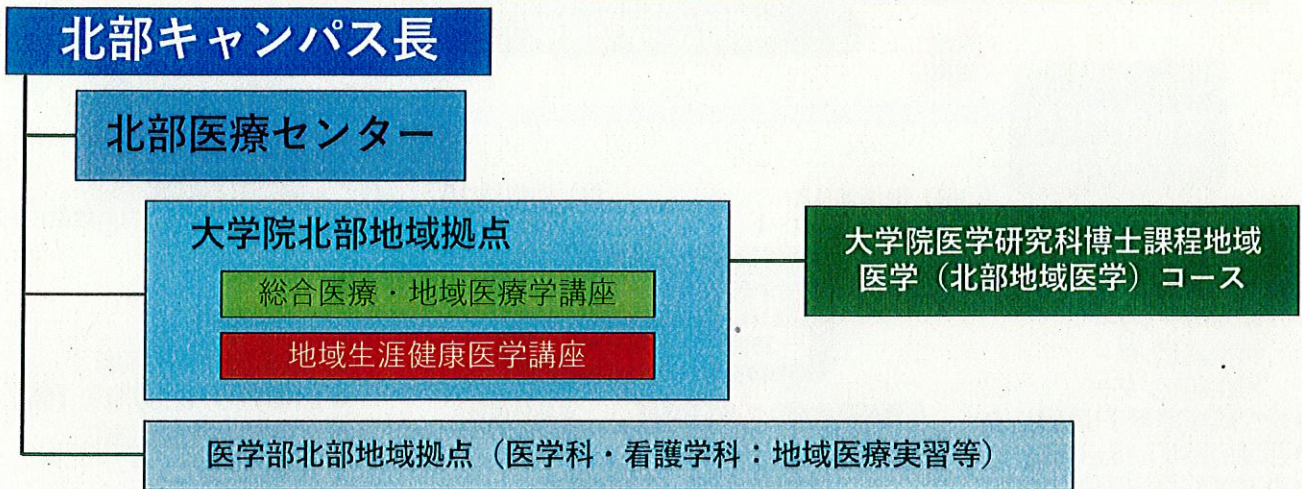
地域アライアンス

地域アライアンス

中丹区単位	計	小児科	内科	外科	産科	地域包括ケア構想の目標 (病床数: 2,205床)
現状 病床数稼働率 (R4.7.1)	6,996	73	917	616	336	○ 現行の計画病床数を上回っており、取付の計画病床を維持
西舞鶴 (R6)	6,687	184	634	557	288	○ 西舞鶴圏域では、圏域別に比・全性比が大幅に上回っている。一方、今年、回復期の需要が及ぶため、回復期の充実を図る
東舞鶴 (R4)	2,309	-	-	-	-	● 東舞鶴に1,000床を確保

主な医療機関	中丹区単位 (R4.7.1)					西舞鶴圏域 (R4.7.1)			
	小児科	内科	外科	産科	計	内科	外科	産科	計
① 富田山市民	●	●	●	●	344	45	257	44	○
② 尾道経済	●	●	●	●	254	10	209	35	○
③ 尾道医療	●	●	●	●	235	12	89	130	○
④ 尾道市立	●	●	●	●	200	0	156	50	○
⑤ 尾道赤十字	●	●	●	●	100	0	100	0	○
⑥ 尾道市立	●	●	●	●	100	0	0	0	○
⑦ 尾道赤十字	●	●	●	●	100	0	0	0	○
⑧ 尾道赤十字	●	●	●	●	100	0	0	0	○
⑨ 尾道赤十字	●	●	●	●	100	0	0	0	○
⑩ 尾道赤十字	●	●	●	●	100	0	0	0	○

北部キャンパス構想 “知の拠点化”



京都府与謝野町に京都府立医大北部キャンパスを設置して「知の拠点化」を図ることにより、医師、医学者としてのキャリア形成ができる地域という意味での「地域の魅力化」を図ることを目指す

地域医療医育成プログラム受講支援等事業の計画

